

会議等名	海老名市高齢者保健福祉計画 第7回策定委員会
日時	平成30年1月29日(月) 午後3時から4時まで
場所	海老名市役所 政策審議室
出席者	<p>委員：伊勢田委員、今別府委員、大石委員、松竹委員、山崎委員、 亀子委員、内山委員、小賀坂委員、越谷委員、河野委員 (大矢委員、清水委員、手塚委員欠席)</p> <p>事務局：高齢介護課長 萩原明美 高齢介護課主幹兼高齢者支援係長 安本栄 介護保険係長 荒井保 高齢介護課主幹兼介護認定係長 大島みどり 高齢者支援係主事 山崎禎広</p> <p>傍聴者：なし</p>
概要	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 計画について【資料1・2】(説明：山崎)</p> <p>《質疑・意見等》</p> <p>(1) 計画について</p> <p>委員：地域共生社会について、「高齢者と障がい児者が同一の事業所でサービスを受けやすくするために、介護保険と障がい福祉両方の制度に新たに共生サービスを位置付けます」と記載があるが、具体的にはどういうことか。</p> <p>事務局：これまで障がいのサービスを受けていた方は、65歳になると介護保険のサービスに変わり、これまで慣れ親しんだところとは違う場所でサービスを受けなければならないといったケースがあった。今後は障がいの事業所でも一定の条件を満たせば介護保険の事業所としても認定できるようにするという動きがある。具体的な指定等の話については、今後詰めていくこととなる。</p> <p>委員：P71に地域ケア会議についての記載の中で、「基幹型地域包括支援センター」とあるが、他の包括とは違う機能を持つのか。</p> <p>事務局：現在6か所ある地域包括支援センターを統括する役割を担う。そのため、地域型のものが増えるというよりは、海老名市全体をみる地域包括支援センターとなる。また、困難ケース等についても、後方支援を行っていくこととなる。</p> <p>委員：所在地はどこになるのか。</p> <p>事務局：場所についてはまだ未定となっている。</p> <p>委員：P55に地域サロンの一覧が追加され、地図も追加されておりとてもわかりやすくなっている。しかし、南部地区において、人口は多いが門沢橋の方での地域サロンが1つだけとなっている。これは増やす予定はないのか。</p> <p>委員：社会福祉協議会で委託を受けているが、今後も数を増やしていく予定となっている。しかし、自治会がその役割を担っているところにはでき難いという実態もある。もし、知り合い等で開設したいという方がいる場合には、数人いれば自由に</p>

開設することも可能であるため、声をかけてほしい。

委員：サロンをやっていく中では、中心になって推進する人間が不足しているという問題がある。体調不良や転居等で1人がいなくなるだけで運営に非常に支障が出てきてしまう。人材の開発は本当に重要な課題となっている。また、色々な方が来るため、中には多少身体が弱っていて、転倒等のリスクが高い方もいる。そういった方への対応も課題となってくる。

委員：事故が発生した時の管理責任については、難しい問題である。個人の情報を集めてしまうと、管理責任が発生してしまうと警察に言われた。事故への対応については、市で後押しをしていただけるとありがたい。

委員長：医師会も同じように考えており、ネットワークを拓げていく中で個人情報が入る障壁となっている。また、社会福祉協議会でサロンツアーという、サロンの見学会を企画していると聞いた。そういった試みも増えていくといいと思う。

委員：P112で「政策会議」や「最高経営会議」、「議会」と記載されているが、これはどのような日程になっているのか。

事務局：「政策会議」や「最高経営会議」は市の意思決定の機関。2月の「政策会議」と「最高経営会議」にて承認をいただくかたちとなる。また、3月に議会があり、文教社会常任委員会で議員の方々にお知らせをさせていただく予定となっている。議会が終わった後にはHP等に記載をさせていただき、その後民生委員等の方々にも説明を行っていく。

委員：それでは、もし政策会議等で修正の要望が出た場合には、修正があるという理解でよろしいか。

事務局：場合によってはそういうこともあるが、基本的にはあまり修正はない。

委員：これは一般の市民にはどのように周知をするのか。

事務局：HPで周知し、窓口でもお渡しする予定である。また包括支援センターにも渡す予定となっている。

委員長：広報にも載せるのか。HP等を見ることができない方もいるため、そういった方々にどのように周知するかは考える必要がある。

事務局：完成したという周知については、広報に載せることを検討する。

委員：抜粋版は作成するのか。

事務局：抜粋版は作成する予定はない。

委員：この委員会に携わるまでこういった計画があることは知らなかった。市民の方でも知らない方は多いはずなので、周知するよう努力してほしい。

委員：包括支援センターでも周知をしていくのか。

委員：各地域包括支援センター職員が集まる包括連絡会にて、策定委員会の報告を行ったり、高齢者プラン21の骨子案を渡したりして、計画について地域包括支援センター職員への周知を図っている。市民から問い合わせがあった際に、高齢者プラン21に基づいて地域包括支援センターからも案内ができれば、市民の方への周知にもつながるので、そのように努めていきたい。

委員長：それでは、この計画について委員会で承認をしてよろしいか。

各委員：拍手。

委員長：委員会としてこの計画を承認する。

委員長：それでは、各委員より1年間の感想を言っていたきたい。

委員：これまで何も知らなかったが、今回参加したことで、市がこのような計画をしていることを知った。普段の生活の中ではこれがどのように役立っているか実感がわからない。しかし、市民の1人として興味を持って積極的に生活をしていかないとわからないことも多いと感じたため、今後積極的に生活をしていきたい。

委員：今回参加して、初めてわかったことが多く、国や県、市がどのように考えているかもわかった。知人にも認知症の方がいるが、包括支援センターも違う県や市ではどこにあるかもわからない。近所の方から助けていただきながら生活をできてはいるようだが、今後自身も勉強しながら支援をしていきたいと思う。

委員：以前民生委員をやっており、その頃は高齢者ガイドブックを1件ずつ配っていた。その後は配布ではなくて希望者にプラン等を渡していたが、多忙だったこともあり内容の全ては読んだことがなかった。しかし、今回委員会に出て、皆様が真剣に色々なことを検討しながら決まっているのだということが身に染みて感じることができ、勉強になった。今後、自身も色々なかたちで関わっていききたいと思う。

委員：これまで介護や高齢者の話について言葉としては聞いていたが、ここまで深くはわかっていなかった。1年間委員をして、自分自身が色々と学ぶことができた。また、ボランティアの方が集まらないという話もあったが、それはどこの団体でも同様の問題を抱えている。人員の募集と育成はどこのボランティアでも大きな課題となっているため、工夫していくことが必要である。市民の方の健康づくりについては、普及員である自分たちも進めており、それと同様に社会福祉協議会や地域包括支援センター等各機関も活動しているため、協力できることはさせていきたい。

委員：自分も以前はサラリーマンであり、地域のことに関心はなかった。しかし、あるきっかけで地域に出るようになったが、高齢化したことは悪いことではないため、どのようにポジティブに考えるかが大事である。何かできることをすることで、ネガティブな考えを払拭することができる。書いてあることを全て実施することは難しいかもしれないが、できることを協力して行っていくことが大事。継続するために、無理をせずできることをやっていくと考えてほしい。全てが整わないと幸せになれないということはない。小さな幸せも大事である。この会に出させていただいて皆さんの意見を聞かせていただいて、勇気になり、幸せにつながった。

委員：皆さんから色々な現場の具体的な意見をいただいて、ありがたかった。その中でも常設サロンで地域の方と一緒に取り組む中で、えびな北地域包括支援センターとも関係が作られているため、介護が必要な方をすぐにつなぐことができたという話や、認知症の重度の方も大変だが、中度や軽度の方のご家族様のご苦勞も聞いて、改めて大変さを感じた。また、地域包括支援センターの知名度がまだまだ高くないということもあり、ゆめクラブの理事会で各地域包括支援センターの紹介をさせていただくこととなった。個別の方や地域、それぞれに目を向けながら地域の方と協力して地域包括ケアシステムを作りあげていくことが重要であると改めて感じた。

委員：自分は何もわからないまま出るようになり、最初は話がほとんどわからなかったが、1年経って色々なことが少しわかってきた。自分は経験した認知症のことしかわからないが、市も色々なことを考えてくれているのだと今回わかった。今、若年性のアルツハイマーの方が増えている。要介護度が低い方は意識もしっかりして、徘徊もあるため介護が難しい。家族が苦しんでいるのをどう助けるのか、悩んでいるが、皆さんとも今後協力して支援をしていきたい。

委員：自分が介護の現場から離れて大分経つが、この会の資料等を見て、元いた場所の介護に携わっている方に現状について話をすると、方向性がよくわかる。また、新聞介護についての記事が出ていたため、記事を全部読んで、相談をしたり勉強をさせていただいた。資料のP43にある「生きがい教室」について、スタッフとして働いているが、シルバー人材センターの会員数が減っている。その理由はおそらく、定年が65歳に延長されたことでシルバー人材センターに登録する方の年齢層も上がり、会員が減っていると推測している。生きがい教室に60歳から参加する人も減っており、70歳から参加する人が増えている。皆さん興味の幅も広いことで元気な方が多く、介護予防としても良い方向に向かっていると感じる。4月以降も良い教室を行って参加者を増やしていきたい。自分がやっている生きがい教室もこういった計画に反映されているということがわかった。

委員：今後高齢化がますます進行する中で、社会で問題が発生するが、その問題に対する防止策が必要となってくる。今回の高齢者プランを的確に運用していただいて、海老名市を住み続けたい街にしていただければと思う。また、策定に貢献できてうれしく思う。

委員長：司会をすることとなった時に、発言が出るか不安に思ったが、実際に会が始まると、皆さん非常に活発に意見を言ってくれた。また、そのおかげで良いプランが作成できたと思う。とても感謝している。

4 閉 会

以 上